

グレートワズ神殿

神殿の柱はところどころ赤いペンキで汚れている。
神官たちはみんな赤いアクセサリをつけている以外は普通に見える。
神官は最初は笑顔で対応した。
フラニールから来た人間は、現在はこの街で『任務』に就いている。
『任務』の内容はモンスター退治や門の警備と極秘任務。極秘任務の詳細は言えない。(嘘はついていないという感触)
赤をテーマにしたコンクールの話題を振ると、『素晴らしいコンクールで賞金は赤白金貨1枚』とのこと。
赤白金貨の提供元は神殿長で、神殿長は極秘任務に就いているとのこと。
警備任務の場所は【西の門】【東の門の外の井戸】【北西の門】。
西の門には見たことのないモンスターが出現したため。モンスターの出現は1~2週間前、全身が赤いため倒しにくい。
西の門の赤いモンスターの詳細については冒険者ギルドか西門(にいる警備?)に問合せしてほしい。
井戸からは赤い水が湧き出るようになり、みんなが喜んで飲むから警備の必要がある。とても美味しいらしい。
北西の門の先にはアカデミー(時計塔?)がある。

神殿長に渡したいメモがあると言えば『メモを預かる』と言われた。直接渡したいというと『無理です』と言われた。
食いが下がったことで神官の機嫌が悪くなった。

役所

静かな雰囲気。
役場の認識ではサルメは平和な街。
赤をテーマにしたコンクールは2週間後の開催が最初。何故これまでやらなかったのか不思議。
今後は月一開催したい(by受付)
『よりよい赤を追求できるか』に対し、町長も副官もそう言っているとのこと。(副官は今回の依頼者でもある)

時計塔のサルメ支部は北西の出口の外で閉鎖されている。閉鎖の理由は不明。
現在北西の出口は聖騎士が封鎖中。

ヨシュア(副官であり今回の冒険の依頼人)との面会の申し込みをしたら、
明日(PTがサルメに到着した次の日)の昼にまた来てほしいとのこと。

北西の出口

三人の聖騎士と二人の神官が封鎖している。
『時計塔が脅迫を受けているため通せない』というのが聖騎士たちの言い分。
色の魔術師であっても通すことはできない。
上の許可があれば通せるが、無理矢理通るなら戦闘になっていた。
通せない理由は『誰も通すなど言われているから』

以上は全て真実のようだ。(嘘発見スキル判定でクリティカルの結果)

シーフギルド

15歳ほどの下っ端受付が対処。赤は好きらしい。赤金貨を見せると興奮して鼻血。
ギルドは地下で暗い雰囲気。
下っ端の認識ではサルメは平和な街。
『ルシア』が依頼を受けたという情報はある。
冒険者ギルドがたくさん依頼を出すのは珍しい。
シーフギルドでも赤金貨の両替をしているが、セレン銀貨を赤金貨に両替してくれそうなどはない。
エリュティア神殿には好意的。サルメにエリュティア神殿は無い。
聖騎士の動きはかなり怪しく、アカデミー(時計塔?)は何をやっているか分からない。
赤金貨を与えたところ、さらなる情報提供には(PTがサルメに到着した日から数えて)数日を要すると回答。
ガラムは微笑み亭にいると伝達。

博物館

民間人がたくさん押しかけている。金持ちが金はいくらでも出すから所蔵品を売れと言っている。
博物館は近々閉鎖するので、所蔵品を売りに出している。
フラニールからの借り入れについて聞くとはげられた。
博物館職員シーリアが聖騎士サガの立会いの下で借りたはずと言っても、さらにとげられた。
所蔵品の売却は全て赤金貨のみで行っている。
赤いVAP(元フラニール所蔵品)は赤白金貨15枚。
コンクールと博物館には関係がない。
所蔵品の売却益がどこに入るのかは館長に聞かないと分からない。
館長は最近めっきり顔を見ない。館長はエドナという名前の女性。
実は応対してくれた人こそがシーリアだった。
同じ名前の人がフラニールから所蔵品を借り出していったといえば逆切れされて蹴りだされた。

冒険者ギルド

小さなギルドなのに数十人が殺到。冒険者たちには全員赤い魔力反応。
街の西口近くに出現したモンスターの退治が人気?
微笑み亭(PTの泊まっている宿)の亭主(元戦士35~40歳)もギルドに来ていた。
西口のモンスター退治は亭主の手には余るもよう。
冒険者『ルシア』についての情報は秘匿義務があるのか得られなかった。
たくさん依頼が舞い込んだ原因についても秘匿義務があるのか情報は得られなかった。
依頼人の情報は、依頼を受けた時点で開示可能。
報酬は赤金貨で支払われる。一つの依頼に参加人数は6人まで。